

平成27年度 第10回教育研究評議会議事録

日時 平成28年1月20日（水）14：30～16：45
場所 事務局棟5階大会議室
附属図書館浜松分館・学生支援棟3階会議室
出席者 伊東幸、石井、木村、東郷、前田、柳澤、丹沢、伊東暁、澤渡、鈴木、
今野、寺村、菅野、谷、酒井、藤井、塩尻、加藤、佐古、中山、糠谷、
鳥山、渡邊、中村、三村、朴、澤田の各評議員
陪席者 鈴木、櫻本の各監事
阿部、青木の各学長補佐

審議に先立ち、議長から、年頭の挨拶があったとともに、本学の今後の教育改革の展望について、表明があった。

I 議事録の承認について

平成27年度第9回教育研究評議会議事録（案）を原案どおり承認した。

なお、塩尻委員から、報告事項3の「議事において確認された事項」におけるアジアブリッジプログラムに関する発言で、「各部局の定員内での扱いとなる」旨の記載について、同プログラムは、定員外の扱いと認識しているため、その記載の疑義について質問があり、石井委員から、学部学生定員においては、その上限について文部科学省から厳しく管理されているため、同プログラムについては、定員外の扱いとされるよう文部科学省に要望する予定だが、大学院学生定員については、学部学生定員ほど厳しく管理されていないため、現状では、定員内の扱いでも問題ないことから定員内との扱いとしている旨の説明があった。

II 審議事項

1 静岡大学地域創造学環の創設に伴う関連規則の制定及び一部改正について

議長から、静岡大学地域創造学環の創設に伴う関連規則の制定及び一部改正について提案があり、石井委員から資料1により説明があった後、審議の結果、原案どおり承認した。

＜議事において確認された事項＞

- ・加藤委員から、学術の学位を授与する対象の学生について質問があり、石井委員から、学術の学位は、地域創造学環の課程を修めて卒業を認定された学生のみ授与する旨の説明があった。
- ・加藤委員から、学環の可否判定に係る取り扱いの是非について質問があり、石井委員から、同取り扱いについては、文部科学省に確認済みであり、判定結果については、学籍を置く学部へ報告することとなる旨の説明があった。

- ・菅野委員から、学環学生が学籍をどの学部置くのかについて説明するかとの質問があり、石井委員から、個人的な見解としては、基本的には知らせない方向であるが、学環の意味付けについては説明する必要があると思われる。今後、学環設置準備委員会において検討することとしたい旨の説明があった。
- ・加藤委員から、学環学生が学部学生と一緒に学部専門科目の授業を受講することへの配慮等について質問があり、石井委員から、「学びアドバイザー」を配置及び各学部に対応教員をお願いする等対応をする旨の説明があった。
- ・加藤委員から、学環学生の学籍番号について質問があり、石井委員から、番号で識別できるよう工夫する予定である旨の説明があった。

2 静岡大学障がい者を理由とする差別の解消の推進に関する教職員対応規則の制定並びに静岡大学障がい学生修学支援規則及び静岡大学障がい学生支援委員会規程の一部改正について

議長から、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」の施行等に伴う静岡大学障がい者を理由とする差別の解消の推進に関する教職員対応規則の制定並びに静岡大学障がい学生修学支援規則及び静岡大学障がい学生支援委員会規程の一部改正について提案があり、丹沢委員から資料2により説明があった後、審議の結果、原案どおり承認した。

なお、議長から、監督者の選定にあたっては、複数年対応することを想定し、責任を持って対応できる者を選定願いたい旨の発言があった。

<議事において確認された事項>

- ・鳥山委員から、本規則等における障がい者の対象について質問があり、丹沢委員から、対象は学生となる旨、また、受験生も学生に含めて対象としているため、監督責任者の対応範囲に事務局を設定している旨の説明があった。
- ・鳥山委員から、本規則等における学環への対応について質問があり、丹沢委員から、学環への対応については、別途整理を行ったうえで、次回または3月の本会議に修正案を提示したい旨の説明があった。
- ・菅野委員から、本対象には、幼児、児童、生徒も含まれるため、対象範囲を明確に示して欲しい旨の要望があり、丹沢委員から、本要望に対して、対応したい旨の発言があった。

3 静岡大学「光創起イノベーション研究拠点」棟利用細則の一部改正について

議長から、光創起イノベーション研究拠点棟の利用に係る規定を明確にするための静岡大学「光創起イノベーション研究拠点」棟利用細則の一部改正について、資料3により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

4 静岡大学卓越研究者称号授与規程及び静岡大学卓越研究者に関する申合せの一部改正について

議長から、卓越研究者から研究フェローへの名称変更に伴う静岡大学卓越研究者称号授与規程及び静岡大学卓越研究者に関する申合せの一部改正について、資料4により提案があり、木村委員より補足説明があった後、審議の結果、原案どおり承認した。

なお、議長から、本規程等の改正に伴い、現在、文部科学省に提出している第3期中期計画案を変更する必要がある旨の補足説明があった。

5 浙江大学（中華人民共和国）との大学間交流協定の更新について

議長から、浙江大学との大学間交流協定の更新について、資料5により提案があり、審議の結果、原案どおり承認した。

6 タラス・シェフチェンコ・キエフ国立大学（ウクライナ）とのダブルディグリー特別プログラム覚書の締結について

議長から、タラス・シェフチェンコ・キエフ国立大学とのダブルディグリー特別プログラム覚書の締結について提案があり、鈴木委員から資料6により説明があった後、審議の結果、原案どおり承認した。

Ⅲ 報告事項

1 企画戦略会議報告

議長から、平成27年度第10回企画戦略会議（H28.1.6開催）について、資料7により報告があった。

2 第3期中期目標・中期計画について

東郷委員から、1月15日に提出した第3期中期目標原案・中期計画案について、資料8により報告があった。

なお、同委員から、卓越研究者から研究フェローへの名称変更に伴う中期計画の変更対応については、本会議後、再度、文部科学省に修正版を提出することとなる旨の説明があった。

また、同委員から、本件に関連して、今後、措置事項の精査を行うとともに、平成28年度年度計画を策定していくこととなる旨の説明があった。

<議事において確認された事項>

- ・佐古委員から、計画番号45の「英語のみで修了できるコース等の増設」については、修士課程を対象にしたものかとの質問があり、石井委員から、現状では修士課程のみの対象となるが、学士課程にも留学生を対象とした同コースの設置についても議論されている旨の説明があった。また、佐古委員から、計画番号56の「外国人教員等比率13%」に係る外国人教員等比率の現状と数値目標の根拠について質問があり、東郷委員から、現状の外国人教員比率4%、外国での学位取得者を含めると11%であることを考慮し、6年間で達成し得る現実的な目標として設定した旨の説明があった。
- ・菅野委員から、計画番号60の「管理職」の基準について質問があり、前田委員から、管理職手当の受給者が対象となる旨の説明があった。

- ・谷委員から、部局における措置事項の作成時期について質問があり、東郷委員から、全学の措置事項が決定した後の作成となる旨の説明があった。

3 平成26年度剰余金の使途について

前田委員から、平成26年度剰余金の使途について、資料9により報告があった。

<議事に関連して委員から出された意見等>

- ・寺村委員から、夜間主コースにおける社会人教育の支援経費について、平成28年度予算においては、運営費交付金の中に埋没するとも聞いているが、従前どおり配分願いたい旨の意見があり、前田委員から、第3期の予算編成が変わることもあり、長期的な視点により予算編成を行うことが求められるが、他学部との兼ね合いも見ながら、意見を踏まえつつ、今後、平成28年度予算の中で精査したい旨の説明があった。
- ・佐古委員から、秋季入学における学生増に伴う追加予算の有無について質問があり、前田委員から、学生収容定員を配分の根拠としているため、追加で配分することはない旨の説明があった。
- ・複数委員から、アジアブリッジプログラムが補助金から運営費交付金化されたことを踏まえ、学環や同プログラムに係る経費配分の配慮、予算配分の明確化及び事務体制の整備等について配慮願いたい旨の依頼があった。
- ・糠谷委員から、機能強化に係る経費の配分方法について質問があり、前田委員から、今後検討する予定である旨の説明があった。

4 ブタペスト工科経済大学（ハンガリー）との大学間交流協定の更新について

鈴木委員から、ブタペスト工科経済大学との大学間交流協定の更新について、資料10により報告があった。

5 国立中央大学工学部（台湾）との部局間交流協定の締結について

鈴木委員から、国立中央大学工学部との部局間交流協定の締結について、資料11により報告があった。

6 バングラディッシュ工科大学工学部（バングラディッシュ）との部局間交流協定の締結について

鈴木委員から、バングラディッシュ工科大学工学部との部局間交流協定の締結について、資料12により報告があった。

7 平成26年度決算検査報告説明会について

鈴木監事から、平成26年度決算検査報告説明会の概要について、主な不当事項の事例を踏まえ、資料13により報告があった。

なお、同監事から、今回の説明会においては、国立大学法人等における

自己収入の確保に向けた取組状況の報告が併せて行われ、各法人等に同取組を促す意図が読み取れたとの補足説明があった。

8 静岡大学インドネシア同窓会の開催について

鈴木委員から、1月23日にジャカルタで開催される静岡大学インドネシア同窓会について、資料14により案内があった。

9 平成27年度地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+） 静大発ふじのくに創生プラン キックオフシンポジウムについて

石井委員から、2月16日に開催される平成27年度地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）静大発ふじのくに創生プラン キックオフシンポジウムについて、資料15により案内があり、議長から、積極的な参加について依頼があった。

10 教員採用等報告について

議長から、学術院の融合・グローバル領域3名、情報学領域3名、理学領域1名及び工学領域4名の教員の採用等について、資料16により報告があった。

なお、塩尻委員から、融合・グローバル領域3名の主担当に係る記載において、創造理学コースに修正したい旨の意見があり、意見を踏まえ修正することとした。

IV その他

1 学生の支援に係る募金について

渡邊委員から、創造科学技術大学院生の外国出張先での疾患に係る支援のための募金について、資料17により案内があり、併せて協力について依頼があった。

なお、議長から、同様の事例等に係る学生保険の加入に対する徹底について付言があり、鈴木委員から、留学生に係る保険も加入できるため、今後、改めて周知したい旨の発言があった。

- 石井委員から、1月16日及び17日に行われた大学入試センター試験について概要説明があり、併せて各部局の協力に対して、議長共々謝辞があった。
- 丹沢委員から、2月22日に開催される博士人材キャリアパス支援シンポジウムについて、席上配付資料により案内があった。
- 朴委員から、2月22日に開催されるグリーン科学技術研究所が主催する国際シンポジウムについて、席上配付資料により案内があった。

以 上